



『GIGA スクール』のその先は・・・？

校長 濱 中 昌 志

学校における「GIGAスクール構想」や「一人一台端末導入」といった言葉を耳にするようになり、あっという間に一人に一台準備されました。

それぞれ個人に対してタブレット（アップル社のiPad）が割り当てられ、日常的な活用がはじまっています。

グローバル化など、複雑で多様な現代社会において、AIやロボット、そして様々なデータといったテクノロジーの活用を促す「Society5.0（ソサイエティ5.0）社会」に必要な資質や能力の育成が、学校教育にも求められています。

そのような中、リクルートワークスという研究所が、「一人ひとりが生き生きと働ける次世代社会の創造」を使命に掲げて各種の研究を行っており、働きたいと思う人誰もが、働きたいときに、働きやすく、働きがいのある仕事に就くことができる社会の構築、そんな次世代社会の実現をミッションに、研究所を展開しています。

その研究所による、以下のようなレポートが私の目をひきました。

これからの「学び」は？

これからの私たちにとって学ぶこととは、人生の一時期において、「学校」や「職場」などから与えられるものではなく、多くの選択肢の中から、自分に合った学びを、自分で創り出して、誰かと交換したり、協働したりしながら、社会のために使っていくものになるだろう。

学習テクノロジーの台頭は、働くことや学ぶことについて劇的な変化をもたらすだろう。

学びはこれまでのようにあらかじめ決められた場所ややり方で「蓄積すること」ではなく、自由なタイミングで「創り出すこと」「発信すること」を意味するようになる。

今後はさらに自分のタイミングや頻度、レベルに合った学びが簡単に手に入るようになる。

未来の学びはこれまでの「学習観」を根本から覆すものになる。

このレポートが意味するものは、令和の日本型教育にも求められており、「個別最適な学び」や「協働する学び」などと表現されています。

このような時代にあっても、サンフランシスコで次世代型の中学校を経営する校長は、世代の異なる人々と、互いの気づきに対話する場を定期的に意図的に創っているそうです。

本校の1、2年生を中心とした生徒会は、新たな実践として「やらされる」活動から、自ら「やる」活動を意識し、地域に出て募金活動を展開するようです。

3年生の思いを受け継ぐ生徒たちは、「愛宕魂」を北海道に、日本中に、世界中に発信してくれることと信じております。

Society5.0の時代にあっても、工夫をしながら世代の異なるメンバーで交流することが、地域創生に必要であると、私は、改めて感じております。今後とも、子どもたちを豊かに育むために、学校での諸活動等にご協力いただけますようお願いいたします。

防災訓練

10月16日(水)防災訓練が行われました。防災教育を通して、防災意識の向上を図るため、自衛隊の皆さんのご協力のもと実施しました。心肺蘇生法による応急処置、段ボールベットの構築の実技演習を行い、防災への意識を高めることができました。

これを機会に、洪水や土砂災害のハザードマップや避難場所・避難所を確認するなど、ご家庭でも災害に備えるためにも、是非話し合ってみてください。



★下水道いろいろコンクール (ポスター)



金賞
青木彩恵さん(3-1)



銀賞
小笠原唯人さん(1-4)

★明るい選挙啓発 ポスターコンクール



佳作
向井蓮花さん(2-2)

未来を育む作品展

10月5日(土)～7日(月)「未来を育む作品展」がイオン旭川永山店で行われました。本校のすこやか学級の生徒が制作した木工や陶芸などの作品が展示されました。



中連文化発表会

10月25日(金)旭川市中学校連盟「音楽発表会」が旭川市民文化会館大ホールで行われました。本校からは合唱部が出演し、合唱曲「ヒカリ」「ふるさと」を披露しきれいな歌声を響かせました。

10月15日(火)～31日(木)旭川市中学校連盟「作品展」が特設ホームページにて開催されました。本校からは、1学年のモザイクアートと美術部員が制作した絵画やイラストの作品が展示されました。



栄光をたたえて

★全国U15バスケットボール選手権大会道北ブロック予選

・男子の部 第3位

★旭川地区U15バスケットボール大会新人大会

・男子の部 第3位 ・女子の部 第2位